



貨幣の世界

6

貨幣同士の識別を簡単にしたり、偽造しづらくするために円形以外の貨幣の形が採用されることもあります。前回に続き、近代以降の多角形を中心とした貨幣を紹介します。

形

その5

現代の貨幣 国もいろいろ形もいろいろ (3)

十角形

チリでは、前回紹介した八角形の貨幣だけでなく、十角形の貨幣も日常的に使用されています(写真1)。アフリカ東部の国タンザニアも日常的に使う貨幣や記念貨幣に十角形を採用しています(写真2)。このほか、ドミニカなどいくつかの国でも十角形の記念貨幣が発行されています(写真3)。

写真1 チリ 50ペソ アルミニウム青銅貨
(1981年～発行)



八角形でも紹介した、独立戦争の英雄 Bernardo O' Higgins (ベルナルド・オイギンス) 将軍が描かれています。日常的に使用される貨幣として、1981年以降発行されています。(直径25mm、重量7g)

十一角形

日本では、この形自体を目にする機会にはほとんどありませんが、カナダ(写真4)やチエコ(写真5)、マダガスカル(写真6)では、日常的に使用されています。今回はさらに角が立ちます。

写真4 カナダ 1ドル 青銅メッキのニッケル貨
(1987年～発行)



日常的に使用される貨幣として発行されました。表面には、元首であるエリザベス二世女王の横顔、裏面は、北極圏で繁殖し、冬季に温帯で過ごす渡り鳥アビをあしらっています。ちなみに、エリザベス女王の横顔は発行後数回変更されています。(直径26.5mm、重量7g)

写真3 ドミニカ 世界人権宣言(35周年)記念1ペソ白銅貨
(1983年発行)



中南米の島国ドミニカにおいて、世界人権宣言 35 周年を記念して発行されました。裏面に描かれた3人は、スペインによる植民地化への抵抗や奴隷による反乱のリーダーたちです。3人の上にはスペイン語で「人権の始まり」と掲げられています。(直径 33.54mm、重量約 17 g)

写真2 タンザニア 独立10周年記念5シリング白銅貨
(1971年発行)



タンザニアは、大陸にあるタンガニーカ(1961年独立)とインド洋上の諸島であるザンジバル(1963年独立)の連合共和国です。表面には、タンガニーカ独立の指導者にして、1985年の引退まで同国の大統領を20年以上務めたニエレレ大統領(1922~1999年)が描かれています。1972年から、この記念貨幣と同サイズで若干デザインを変更した日常用の貨幣が発行されました。なお、1987年からはサイズが縮小され(18mm<1990年銘17mm)、肖像も第2代ムウィニ大統領に変更されています。(直径31.5mm、重量約14g)

写真6 マダガスカル 50アリアリー ステンレススチール貨
(1992年~発行)



マダガスカルはアフリカ東海岸沖に浮かぶ島国。貨幣の裏面には、フランスの作家サン=テグジュペリの「星の王子様」で悪役にされてしまった「バオバブ」の木が描かれています。ちなみにバオバブは、マダガスカルをはじめアフリカ東南部などに生育し、樹高約20m、直径約10mにも達する巨木です。

(直径30mm、重量約10g)

写真5 チェコ 2コルナ ニッケルメッキのスチール貨
(1993年~発行)



日常的に使用する貨幣です。表面は東欧の中央に位置する国チェコの国章のライオン、裏面には、額面金額と9世紀~10世紀に栄えたモラヴィア王国(チェコの東部)で使用されていたボタンをデザインしています。

(直径21.5mm、重量約4g)

(写真はすべて個人蔵)